

配布先

		課長	課員	作成	発行	番 号	No. 1 / 7
						年 月 日	2026 年 7 月 6 日
議 事 録 ①						部 署	鯖江市産業交流部交通・にぎわい創出課

日時	2026 年 6 月 18 日（木曜日） 14：00 ～16：00		会議時間	2 時間 00 分
会議名	令和 8 年度第 1 回 鯖江市地域公共交通活性化協議会		場 所	鯖江市役所 4 階 多目的ホール
出席者	別紙(配席図)のとおり (計 21 名：事務局含む。随行者除く。)		主管部署	鯖江市 産業交流部 交通・にぎわい創出課
			原紙保管	鯖江市 産業交流部 交通・にぎわい創出課
			記 録 者	交通・にぎわい創出課 若杉

項 目	議 事 内 容
1 開会 2 会長挨拶	会長 佐々木市長より挨拶
3 協議・報告 事項	◎委嘱状の交付について 【事務局】 鯖江市地域公共交通活性化協議会設置要綱にて委員の任期を 2 年と規定しており、現委員の方には令和 7 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 3 1 日までの任期でお願いしている。 異動等に伴い、後任推薦書の提出があった委員の方については、後任の方に、協議会当日、令和 8 年 6 月 1 8 日付の委嘱をお願いします。 本協議会の委員名簿については、別添「鯖江市地域公共交通活性化協議会名簿」のとおりである。 ◎本協議会について 【国土交通省中部運輸局福井運輸支局 平井委員】 公共交通会議がこういった会議なのか、委員の方の役割などについて説明を受ける。 ◎協議第 1 号[令和 9 年度フィーダー補助申請について] 【事務局】 ・[資料 No. 1]令和 9 年度フィーダー補助申請について説明。 【三寺座長】 フィーダー補助申請とは、幹線交通から枝葉のように伸びるフィーダー交通に対して、国からの運行補助を申請するものである。本会議で諮り、異議がなければ申請手続きを進める。鯖江市は計画に基づき、つつじバスの支援等の様々な取組を展開してきた。昨年度も順調に利用者が伸びており、計画目標である 17 万人に届きそうな状況である。今年度も本補助金を活用して、更なる利用者数の増加を目指す内容となっている。 → 協議事項第 1 号について質問のある委員の方は挙手をお願いします。

項 目	議 事 内 容
3 協議・報告事項	～質問無し～ 【三寺座長】 → 協議事項第 1 号について承認いただける委員の方は挙手をお願いします。 ～委員挙手多数～ →委員の皆様挙手多数承認とのことで協議第 1 号について協議が調ったこととする。 <u>◎協議第 2 号[第 3 期鯖江市地域公共交通計画(R9～13)および第 2 期鯖江市地域公共交通計画利便増進実施計画(R9～13)策定中間報告について]</u> 【事務局】 ・[資料 No. 2]鯖江市地域公共交通計画策定の進捗について説明。 【三寺座長】 市の取組が充分だと思うか等、他の調査ではあまりないユニークな設問項目が設けられており、鯖江らしさを再認識したところである。満足度に関する調査結果では、他市町と比較して非常に高い数値が得られており、鯖江市の特徴として注目している。特につつじバスは 6 割、福井鉄道も 6 割近くが満足と回答しており、満足度が高い。ハピラインふくいについては、まだ市民に浸透していない、もしくは、色々な課題が表れる結果になった可能性がある。鯖江市は、めがねのまちの賑わいを支え育てることに向けて、公共交通をしっかりと使っていく・育てていくのだという意気込みを感じる内容となっている。 → 協議事項第 2 号について質問のある委員の方は挙手をお願いします。 【鯖江市連合女性会 小部委員】 資料の中で ICT の活用で「MaaS」といった難しい言葉があった。MaaS とは具体的にどのようなものか教えてほしい。 (回答) 【三寺座長】 私の方から、講義で説明している内容について簡単にお伝えしたい。Mobility as a Service の頭文字を取って、MaaS という言い方がされている。経路検索から決済まで、すべての移動サービスを統合して一元的に提供する仕組みである。今年、鯖江市の方でもシェアサイクルが導入された。丹南地域は観光や移動、生活を支えるものがコンパクトにまとまっているため、丹南地域全体で一体となった MaaS を推進できないか、事務局の方々に提案させていただいている。 37 ページの将来像(案)についてはどうか。 【鯖江市連合女性会 小部委員】 「めがねのまち」は鯖江らしく、特に抵抗なく受け入れられるのではないかな。 【福井工業高等専門学校 田安委員】 学生がバスを利用することが多々あると思う。学生が利用しやすい時間帯に設定されており、雨の日や朝方に学生が利用している姿が見受けられる。しかし、学生数の増加が期待できない中、利用者数を増やすためには、通勤利用の増加が必要ではないか。通勤利用を増やす手段の一つとして、工場等を通る路線を強化してはどうか。また、将来像(案)については、鯖江といえばというものであるのに加え、鯖江駅前にめがねのモニュメントもあるため、「めがねのまち」をより推していくことは良いと思う。

項 目	議 事 内 容
3 協議・報告 事項	【三寺座長】 前回計画の将来像はどのような内容であったか。 (回答) 【事務局】 前回計画の将来像は、「豊かさと安心のある暮らしを支える交通環境」となっている。 【三寺座長】 「めがねのまち」をアピールし、公共交通でそれを支える取組は、他の市町とは異なる個性を出すという意味で良いと思う。 また、学生数の増加が見込めない中、通学時の保護者送迎を公共交通へ転換することで利用増加が期待できるほか、通勤利用についても工夫次第で増やせるのではないかと提案もあった。 【福井県立鯖江高等学校 栗田委員】 市外から通学する生徒の公共交通利用は増加している一方、市内在住生徒はヘルメット着用への抵抗感からの自転車通学が激減し、保護者による送迎へ転換する動きもみられる。これを公共交通へ転換できれば、保護者の送迎負担が減るのではないかと。 また、つつじバスの空白地域では子供たちが利用しにくい状況がある。公共交通利用の促進につながる企画や学校との連携を進めることで、利用増加が期待できると思う。 将来像については、「にぎわいをつくる」という表現が来街者目線に偏っているため、地元住民の暮らしの視点も必要ではないかと。 【三寺座長】 ヘルメット着用により送迎が増えてしまったということであるが、生徒にはヘルメット着用についてどのような形で伝わっているのか。 【福井県立鯖江高等学校 栗田委員】 鯖江高校では、原則ヘルメットを着用することとしており、ヘルメット着用率はほぼ100%である。ヘルメットが身を守るものであるという理解は進んでいるが、同時にヘルメット着用に対する抵抗感も感じている。 また、送迎による周辺道路の渋滞も発生しており、解消に向けて公共交通側で何か対策ができないかと考え、意見させていただいた。 【三寺座長】 ヘルメット着用により、通学手段が送迎に転換しているということは初耳であり、課題と感じた。自動車の駐車場所など事務局側で課題解決に向けた考えはあるか。 (回答) 【事務局】 送迎車両の駐車場所の問題は近隣の学校でもみられ、周辺住民への配慮が課題となっている。通勤・通学向けのダイヤ編成は有効と考えられるが、ニーズや利用期間、運転手不足などを踏まえた検討が必要である。また、自転車通学については、天候やヘルメット着用への抵抗感など複数の課題がある。いただいた提案については、今後のダイヤ改正の際に検討していきたい。 【三寺座長】 自転車の範囲は出てしまうが、基本目標4に『自転車の活用と「市民が主役」となる公共交通の利用促進』とあるので、具体的な事業も含めて位置づけていければと思う。

項 目	議 事 内 容
3 協議・報告事項	【福井鉄道株式会社 小嶋様】 福井鉄道福武線の満足度は約 57%と比較的高い一方で、不満を感じている利用者も一定数いることから、その意見を真摯に受け止め改善に努めていきたい。利用者から要望の多い増便については、今年 4 月のダイヤ改正で 85 便から 90 便へ増便したほか、えちぜん鉄道との相互乗り入れにより乗り継ぎ時間の短縮も図った。今後も利用実績やアンケート結果を踏まえ、改善を進めていきたい。 【三寺座長】 → 協議事項第 2 号について承認いただける委員の方は挙手をお願いする。 ～委員挙手多数～ →委員の皆様挙手多数承認とのことで協議第 2 号について協議が調ったこととする。 ◎報告第 1 号「令和 7 年度第三者評価委員会の評価結果の共有について」 <u>【資料 No. 3-1, 3-2】</u> 【事務局】 ・[資料 No. 3-1, 3-2] 令和 7 年度第三者評価委員会の評価結果の共有について説明。 【三寺座長】 →報告事項第 1 号について質問のある委員の方は挙手をお願いする。 ～質問無し～ ◎報告第 2 号「鯖浦線・武生越前海岸線の運行計画変更について」 <u>【資料 No. 4】</u> 【福井鉄道 田畑委員】 ・[資料 No. 4 鯖浦線・武生越前海岸線の運行計画変更について説明。 【三寺座長】 越前町内の道路工事に伴うルート変更およびバス停の休止・移設を行うということであり、鯖江市内に直接的に関係のあるものではないが、同じルート上ということもあり、鯖江市の方でも報告いただいた。 →報告事項第 2 号について質問のある委員の方は挙手をお願いする。 【福井県立鯖江高等学校 栗田委員】 消雪施設の工事が終了となる令和 10 年度以降は、変更前のルートに戻るということか。 (回答) 【福井鉄道 田畑委員】 その認識で間違いない。令和 9 年度の工事では、規制が片側交互通行のみとなり、通行止めが行われない可能性がある。その場合は、令和 8 年度に実施予定の工事区間が終了した段階で変更前のルートに戻る可能性もある。

項 目	議 事 内 容
3 協議・報告事項	◎報告第3号「自家用有償旅客運送の実績報告および かわだ支えあい交通の利用状況について」【資料 No. 5-1, 5-2】 【事務局】 ・[資料 No. 5-1, 5-2] 自家用有償旅客運送の実績報告およびかわだ支えあい交通の利用状況について説明。 【三寺座長】 4月、5月の実績を見ると、運行件数は順調に推移しているように見えるが、昨年度の同時期と比較してどうか。 (回答) 【事務局】 利用実績は季節変動を考慮すると、移行前の「ちょいボラ交通」と同程度で推移していると考えられる。一方で、利用会員数は前年の55名から36名へ減少しており、会費の負担感が利用を抑制している可能性がある。 【三寺座長】 →報告事項第3号について質問のある委員の方は挙手をお願いします。 ～質問無し～ ◎報告第4号「第2期鯖江市地域公共交通計画(R4～8)の実施状況について」 【資料 No. 6-1, 6-2】 【事務局】 ・[資料 No. 6-1, 6-2] 第2期鯖江市地域公共交通計画(R4～8)の実施状況について説明。 【三寺座長】 数字を見ると、着実に計画が進められていることが確認できる。目標3のバスポータルサイトアクセス数については、アクセス数が減少している要因について分析ができていれば良いと思う。 →報告事項第4号について質問のある委員の方は挙手をお願いします。 【国土交通省中部運輸局福井運輸支局 平井委員】 キャッシュレス決済は、具体的にどのような決済手段の導入を予定しているのか。 (回答) 【事務局】 PayPay の導入を予定している。 【三寺座長】 現時点での決済手段は、交通系 IC と現金であるという認識で間違いはないか。 (回答) 【事務局】 現在、つつじバスの決済手段は現金のみである。

項 目	議 事 内 容
3 協議・報告 事項	【福井工業高等専門学校 田安委員】 ICOCA 等の交通系 IC を、バスに載せないのはなぜか。 (回答) 【事務局】 車両に載せるためのイニシャルコストの面から導入できていない。PayPay 等の QR 決済では、端末等を載せなくとも決済が可能であるため、まずは QR 決済から始めさせていただきたい。 【三寺座長】 福井市では他の市町に先行する形で、バスにも交通系 IC が導入された。フィーダー補助もあるため、なかなか難しいかもしれないが、県の補助は用意されているのか。 【福井県未来創造部新幹線・交通まちづくり局交通まちづくり課 中田委員】 交通系 IC 導入に特化した補助金はないものの、市町の実情に応じて、準備等に使える補助金は用意しているため、ぜひ相談いただきたい。 また、QR 決済は導入コストが低く利用者の認知度も高いことから、有効な選択肢の一つと考えられる。時刻表や経路検索との連携、決済方法の周知など、利用しやすい環境整備が重要である。 <u>◎報告第 5 号 「つつじバスの利用状況について」 【資料 No. 7-1, 7-2】</u> 【事務局】 ・ [資料 No. 7-1, 7-2] つつじバスの利用状況について説明。 <u>◎報告第 6 号 「ハピラインふくいの利用状況について」 【資料 No. 8】</u> 【ハピラインふくい 坂上委員】 ・ [資料 No. 8] ハピラインふくいの利用状況について説明。 <u>◎報告第 7 号 「福井鉄道福武線の利用状況について」 【資料 No. 9】</u> 【福井鉄道 小嶋様】 ・ [資料 No. 9] 福井鉄道福武線の利用状況について説明。 【三寺座長】 → 報告第 5 号、6 号、7 号について質問のある委員の方は挙手をお願いする。 ～質問無し～ 【三寺座長】 既存の公共交通利用者の取り合いではなく、公共交通利用者を増やしていくことが非常に重要である。そのためには、各社で行っている取組を強化・連携することや情報発信を行うことが必要である。

項 目	議 事 内 容
3 協議・報告事項	◎報告第 8 号 「LUUP の現状報告について」 【資料 No. 10】 【事務局】 ・[資料 No. 10] LUUP の現状報告について説明。 【三寺座長】 →報告第 8 号について質問のある委員の方は挙手をお願いします。 ～質問無し～ 【三寺座長】 利用者が順調に増加しており、企業利用や若年層の利用のほか、公共交通との連携利用も進んでいると聞いている。利用者の要望を踏まえた環境整備も行われており、このような細やかな取組も含め、シェアサイクル等の末端の交通もしくは公共交通に繋がるものを補っていくことがより必要となる。鯖江市においても、つつじバスとの乗り継ぎやモビリティハブの形成など、まちづくりと連動した活用を進めることで公共交通の利用促進につながるため、今後の動向を注視していきたい。 ◎報告第 9 号 「公共交通の利用促進に向けた取り組みについて」 【資料 No. 11】 【事務局】 ・[資料 No. 11] 公共交通の利用促進に向けた取り組みについて説明。 【三寺座長】 →報告第 9 号について質問のある委員の方は挙手をお願いします。 【福井工業高等専門学校 田安委員】 LUUP の実証実験は 2 年間とのことだが、社会実験終了後の展開はどのように考えているのか。 (回答) 【事務局】 LUUP の電動自転車には GPS が搭載されており、人流分析が可能であることから、まずは 2 年間の実証実験を通じて利用動向を把握し、本格導入を検討する予定である。また、イベント時の利用状況なども踏まえながら、ポートや車両の適正配置について検討を進めている。 【三寺座長】 次期計画には自転車活用に関する目標も盛り込まれており、本格導入への期待がある。資料からは多岐にわたる取組が進められていることがうかがえるが、情報発信に加え、市民と協働した取組も重要である。今後は報道機関も活用しながら、積極的な情報発信に努めていただきたい。
4 閉会	【三寺座長】 → 以上で本日の議事は終了となる。令和 8 年度第 1 回鯖江市地域公共交通活性化協議会を終了する。本日は慎重なご審議をいただき感謝する。